



**信念:** バドミントンコミュニティは、何かを共有し連帯することにおいて、とても高い効果を発揮できる可能性を秘めているという信念のもと、ラファエル・サシュタ、レスリー・デュメルク、イブ・ラクロワ、マリナ・モラルは、**2009年11月**に《Solibad》を立ち上げました。

**目的:** Solibadの目的は、フランスおよび国際バドミントンコミュニティを通じて共同で、人的資源や財政資源を集め、もって人道プロジェクトを実施することです。そのために Solibad がすることはいたってシンプルです。それは、みなさまのそのバドミントンへの情熱を通して、これらのソリダリティ（連帯）活動に具体的に参加してもらうよう提案することです。

**考え方:** この Solibad の活動はとてもオリジナリティに溢れています。もちろん困難に直面した人たちに財政と物資の支援も行いますが、それだけではなく同時に、哀れみの気持ちとはかけ離れて、楽しんでそして楽な気持ちで参加できるような活動を提案します。奉仕活動を行うということは、楽しむものであるべきですし、そしてバドミントンコミュニティを共有し連帯する方法でもあると思うのです。何か後ろめたさから罪悪感をなくすために奉仕活動をするのではなく、喜びを感じながら活動を行うのです。エピクロス主義の一面、共有と連帯の考え方なのです。

**具体的には:** フランスそして世界のバドミントン界で活動するすべての方々、選手、クラブ、民間パートナー、公的機関など、私たちのプロジェクトへの資金集めを支援すると宣言してくださった方々に対し、どのように活動を行ったらよいか、Solibad がサポートしていきます。オークションや様々なイベント（デモンストレーション、式典、中古販売、大会など）の企画をされる際、また年会員になってくださる際に、慈善活動への寄付金を行うことを明示した手続きを行っていきます。

**プロジェクトと活動:** 集められたすべての支援が、確実に適切にそして効果的に、支援対象の人たちの生活向上へとつながるよう、すべてのプロジェクトと活動は Solibad のメンバーによって細心の注意を払って選択されます。そして、これが私たちの活動の最大のポイントのひとつなのですが、集められた寄付金のすべてが、プロジェクトに直接使用されます。Solibad の運営資金には一切使用されず、これらはすべて私たちのパートナーによって補われています。

**最初のプロジェクト:** 私たちの最初のプロジェクトは、すでに **2010年**の初めから開始されています。一つ目は、**2004年**オリンピック優勝者タウフィック・ヒダヤット（インドネシア）が親善大使を務める、バリ孤児院プロジェクトです。ここでは情報処理研修を導入することによって、孤児院卒業後の社会進出支援を行っています。二つ目は、マレーシアの首都クアラルンプール郊外にあるカトリック孤児院支援です。ここでは、恵まれない **40人以上**もの子供たちに対して、日常必要な物を与えることも困難になってきているのです。また、今後ブラジル、ベトナム、中国、マダガスカルにおいても、近いうちにプロジェクトを実施する予定です。

より詳細をお知りになりたい方はこちらへアクセスしてください。

<http://www.solibad.net/jp>